

(2) バイオマス資源の循環利用

国産バイオ燃料の大幅な生産拡大に向けてー 総理報告（工程表）のポイント ー

技術開発がなされれば2030年頃には国産バイオ燃料の大幅な生産拡大は可能

技術開発の課題と生産可能性

技術開発

- ① 収集・運搬コストの低減 …………… 山から木を安く下ろす、稲わらを効率よく集める機械等を開発
- ② 資源作物の開発 …………… エタノールを大量に生産できる作物を開発
- ③ エタノール変換効率の向上 …………… 稲わらや間伐材などからエタノールを大量に製造する技術を開発

原料と生産可能性

現在
30KL

2011年
5万KL

・糖質（さとうきび糖みつ 等）
・でんぷん質（くず米 等）

・セルロース系
（稲わら、間伐材 等）
・資源作物

2030年頃
大幅な生産拡大
* 農林水産省試算 600万kl

バイオ燃料の利用率の向上

【米国】2017年に350億ガロン
（1.3億KL、日本（600万KL）の22倍）を目標
〔2007.1 ブッシュ大統領一般教書演説〕

制度

欧米、ブラジルの制度を踏まえ、国内制度を検討

平成19年度より原料の調達から利用まで一貫した実用的規模での取組を開始 バイオ燃料地域利用モデル実証事業(エタノール混合ガソリン事業) 採択地区

北海道バイオエタノール株式会社 (ホクレン、JA道中央会 等)

設置場所：北海道上川郡清水町
(ホクレン十勝清水製糖工場内)
施設能力：1.5万キロリットル／年
原 料：てん菜、小麦



オエノンホールディングス株式会社

設置場所：北海道苫小牧市
(合同酒精(株)苫小牧工場)
施設能力：1.5万キロリットル／年
原 料：米



全国農業協同組合連合会 (JA全農)

設置場所：新潟県新潟市
(コープケミカル新潟工場内)
施設能力：0.1万キロリットル／年
原 料：米



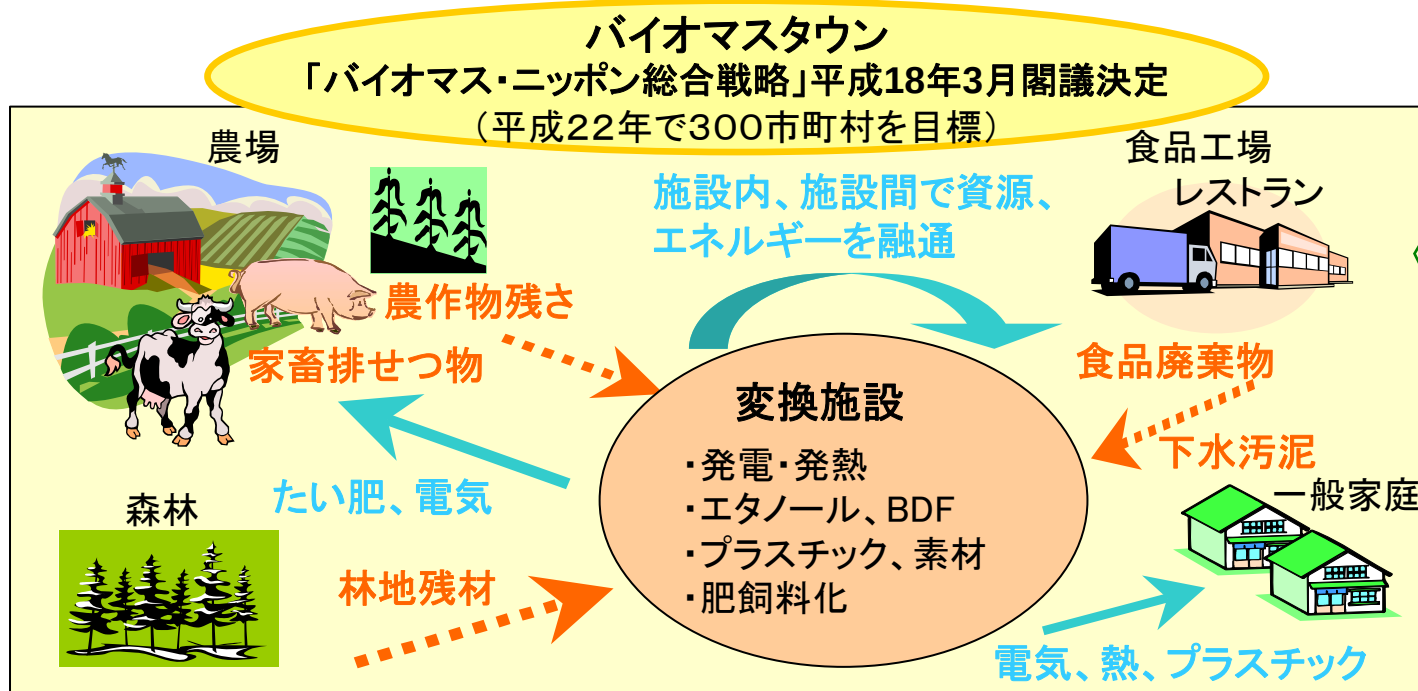
バイオマスの利活用の推進（バイオマスタウンの構築）

バイオマスタウンとは

広く地域の関係者の連携の下、バイオマスの発生から利用までが効率的なプロセスで結ばれた総合的利活用システムが構築され、安定的かつ適正なバイオマス利活用が行われているか、あるいは今後行われることが見込まれる地域



市町村が中心となって、地域のバイオマス利活用の全体プラン「バイオマスタウン構想」を作成し、その実現に向けて取り組む。



- ・地域の関係者が協力した推進体制
- ・効率的な収集・輸送、変換、利用のシステム
- ・地域の多様なバイオマスを複合的に利用
- ・無理のない運営
- ・地域の需要に対応した利用

バイオマスタウン構想を公表した 102 市町村

《平成19年9月末現在》

広島県 庄原市 北広島町	石川県 七尾市 加賀市	新潟県 旧中条町(現胎内市) 上越市 柏崎市 佐渡市	秋田県 小坂町 横手市	北海道 留萌市 旧瀬棚町(現せたな町) 旧大滝村(現伊達市) 三笠市 中札内村 旧東藻琴村(現大空町) 別海町 鹿追町 滝川市 厚沢部町 帯広市 白老町 津別町 豊頃町 東川町
鳥取県 大山町	福井県 若狭町 旧美山町(現福井市) 旧和泉村(現大野市)	富山県 立山町 富山市	山形県 新庄市 旧立川町(現庄内町) 旧藤島町(現鶴岡市) 鮭川村 村山市 西川町	青森県 旧市浦村(現五所川原市) 青森市 藤崎町 鶴田町
福岡県 大木町 立花町	滋賀県 米原市	静岡県 湖西市	宮城県 川崎町	岩手県 紫波町 遠野市 九戸村 花巻市
佐賀県 伊万里市	京都府 旧夜久野町(現福知山市) 南丹市八木町地区		栃木県 茂木町 那須町	福島県 富岡町 会津美里町 大玉村
長崎県 西海市 対馬市	兵庫県 加西市 洲本市 宍粟市 豊岡市 南あわじ市		群馬県 川場村 太田市	千葉県 旧山武町(現山武市) 白井市 旭市 大多喜町 睦沢町
熊本県 南阿蘇村 水俣市	岐阜県 白川町		東京都 あきる野市	
大分県 日田市	愛知県 豊橋市		神奈川県 三浦市	
宮崎県 小林市 門川町 都農町	三重県 伊賀市		長野県 旧三郷村(現安曇野市) 千曲市 旧長谷村(現伊那市)	
鹿児島県 南大隅町 いちき串木野市 志布志市 曽於市	岡山県 真庭市 新見市	徳島県 那賀町	山梨県 早川町 山梨市	
沖縄県 伊江村 うるま市 宮古島市	高知県 梼原町 春野町	愛媛県 四国中央市 内子町		

